

照葉樹林だより

2015
6.20
No.42

特集

アカガシと周辺のコケ

～ コケ ウォッチングのススメ ～ …2-3p



緑霧 夏の山に霧がかかり幻想的な森の景色でした。緑がとてもきれいに見えました。(綾南川にて 撮影:榎橋 俊之)

2014年度 てるはの森の会 活動報告 ……4-5p

綾プロ10周年記念行事
「新緑の綾の森へ行こう!」 ……6p

会報誌 表紙写真 作品募集2015
「第2回 わたしの好きな照葉の森」 ……7p

事務局だより ……8p

発行: 一般社団法人 てるはの森の会(綾の照葉樹林プロジェクト事務局)

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号

TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.com> (フェイスブックも情報発信しています!)

「綾の照葉樹林プロジェクト」は、日本最大級の面積を誇る綾の照葉樹林の保護・復元を目指す、官民協働のプロジェクトです。

アカガシと周辺のコケ

～ コケ ウォッチングのススメ ～

日本蘚苔類学会 会員 松本 美津

2015年2月4日、てるはの森の会主催による「アカガシに宿る生きものウォッチング」が開かれ、コケ案内人としてお招きいただきました。「コケ」という言葉があらわすものには、小さな植物や水槽などに付く藻類、ウメノキゴケに代表される地衣類などがありますが、今回ウォッチングの対象となったコケは「蘚苔類(せんたいるい)」または「コケ植物」と呼ばれるものです。

コケには水や栄養分を根から運ぶ維管束が無く、葉の表面から直接水分を吸収します。また、暗い場所を好むと思われがちですが、光合成を営む植物ですので日光も必要です。日本に約1800種生育するといわれるコケの好む環境はさまざまで、湿度や日光量など、適応できる場所をそれぞれ厳選して生きています。昨年倒れたという樹齢150年を越すアカガシが横たわるのは、川中地区の沢の西側でした。木漏れ日が木々の合間から届く少し薄暗い林。落ち葉の積もった林床から盛り上がる石はコケ色に包まれています。古い巨木とその周辺にはどんなコケが育っているのでしょうか。

小さなコケに近付くために、まずはルーペをとり出しました。肉眼では単一の緑色に見えるコケ

の群落も、よく見ると数種のコケが混生していることがあります。さらにルーペや虫眼鏡で覗くとそのひとつひとつはじつに多様な形をしていて、遠目で見た地味さとのギャップに驚かされることも少なくありません。観察開始まもなくそれを実感していただくのに打って付けのコケが見つかりました。トサヒラゴケです。ヒラヒラとしていて、一見薄いビニールテープがくっ付いているかのような風貌ですが、ルーペを通して見ると茎や葉があり、ちゃんと植物らしい恰好をしているのがわかります。そして一枚一枚の葉が波打つ様子は非常にエレガントで、それがこのコケの特徴でもあります。次に、薄緑色のマットをひとつまみ剥がしたものを覗いてみます。それには樹皮の表面を流れるようなエダウロコゴケモドキと、葉先がカールして立体的なハイゴケが混じり合っていました。数センチ四方の小さな緑色のかけらにひそむ複数の植物体とそれらが織りなす立体感。ルーペを目に当てるだけでレンズの向こう側の小さな森に分け入るような感覚。ほんの少しでも味わっていただけたでしょうか。



トサヒラゴケ



エダウロコゴケモドキとハイゴケ

独特の芳香で名前のわかるコケも見つかりました。その名も「カビゴケ」。植物の葉の上や枝、ときにはガードレールなどの人工物の表面を這うように生きる微小なコケです。名前の由来とされるその匂いについて、今回初めてカビゴケを観察された方々に伺うと「腐った抹茶」「腐ったカビ(?)」「トイレのにおい」「腐ったヤツハシ」など、忌憚なきご感想をいただきました。私には「清涼感のある」「森の香り」に思えるのですが、どうやら「匂い」ではなく「臭い」と表現する方が一般的なのかもしれません。ちなみにカビゴケの香り成分には、抗カビ・抗菌作用があるそうです。カビゴケという名でありながら菌類のカビとは仲良くないようですね。

その後、キヨスミイトゴケ、ホソバオキナゴケ、ハイゴケなどの肉眼で名前のわかる蘚類や、周辺の石を覆う艶やかなコツボゴケやトヤマシノブゴケの群生を観察しました。アカガシの中部から上部の幹にはシダが旺盛で、その間に身をひそめるように、ヤマトフタマタゴケ、ヒメトサカゴケ、ヨコグラハネゴケなどのタイ類が生育していました。シダが少ない箇所にはコネジレゴケ、ヒメホウオウゴケ、ラセンゴケ、シダレヤスデゴケなどが、太めの枝にはスズゴケ、チャボヒラゴケ、サメジマタスキなどが生育していました。私には登ることができなかった高い場所で、K先生が採集してくださいましたサンプルを含め、アカガシとその周辺では

蘚類 20 種、タイ類 12 種合計 32 種を確認しました。中でもトサヒラゴケとカビゴケは環境省第 4 次レッドデータブックにおいて準絶滅危惧に挙げられています。

解散後は、道すがら林道や開けた溪流沿いに育つコケとその色を観察しました。遠目にも黄緑色が鮮やかなエゾスナゴケの大群生。その傍らに佇む深い色のシャープなフデゴケ。雪のような白さで存在を際立たせている土手の上のオオシラガゴケ。和名が絶賛された倒木上の艶やかなコマチゴケ。小雨が降りはじめ、水を含んだウロコゴケやコムチゴケが透明感を増し、より魅力的に見えました。

てるのはの森とその周辺には多くのコケが生育しています。小さな生き物ですが、ときに維管束植物が育ちにくい崩れた崖や土手に先陣を切って現れ、大地の絆創膏の役目を果たしていたり、雨水やしずくをたっぷり体に蓄えることでダム役割を担ったり、コケは森をささえる蔭の立役者ともいわれているのです。形や色の面白さに加え、その生きざまにも興味は尽きません。いつもは通りすぎる場所で、少し立ち止まって緑色のかたまりを覗いてみませんか？ルーペや虫眼鏡があれば、なおのこと奥深い世界を垣間見ることができます。照葉樹林に負けず劣らず美しい小さなコケの森をぜひ見つけてみてください。

(まつもとみつ・日南市)



カビゴケ



コムチゴケ

2014年度 てるはの森の会 活動報告

2014年度は、綾町生物多様性地域戦略の策定に向けて、検討会や編集にかけた1年でした。あわせて、継続しておこなってきた綾のまち歩きコースの検討やESD事業が少しずつ形になり、2015年度に向けていい形でつなぐことができました。詳細は別途配布の総会資料2014年度活動報告でもご覧になれます。

事務局の運営

綾の照葉樹林プロジェクト 事務局

綾の照葉樹林プロジェクト関係機関との調整、問い合わせ対応、事業の企画運営などを行っています。年2回の連携会議、月1回の連絡調整会議の設定、資料作成等の準備をしました。2015年に迎える綾プロ10周年に向けて、記念行事の企画も話し合いました。

綾生物多様性協議会 事務局

環境省と綾町の助成金補助を受け、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会の3者で協議会を設立して3年目の事業。住民参加型の生物多様性地域戦略策定に向けて検討会をかさね、策定しました。生物多様性再生区域「綾トープはっけんじま」の整備も無事終了しました。他に、生物調査結果を報告する企画展も開催しました。

持続可能な地域づくりを担う人材育成事業

社会の課題(環境・貧困・人権・平和・開発…)と身近な暮らしを結びつけてとらえ、どうしたらその課題を解決できるかを考え行動する人材を育成する事業です。小林市立永久津小学校では身近な川の水から世界の水事情を学び、永久中学校では家庭の食事メニューから食の成り立ちを学びました。

当会の一般社団法人設立記念会 開催

綾プロの事務局を担って9年、円滑な運営や市民参加の森づくり・地域づくり、ユネスコエコパーク登録推進など、多くの取り組みをしてきました。綾プロが10年を迎えること、エコパーク登録後に対応した取り組みが求められる等、大きな節目を迎えました。これを契機に、100年先を目指した取り組みの体制づくりを目指すために、任意団体から一般社団法人へ移行しました。記念会では、会員や関係者を含む約70名が参加し、中島淳氏の講演やソーラーフロンティア㈱の綾プロ参加事例発表に耳を傾けました。

森の整備・調査

綾プロエリアの環境教育基本方針の検討

環境教育エリアの活用を進めるために、基本方針の検討を続けています。県の担当者と県有林遊歩道の視察をしました。

げんだぼの森 整備

綾町三本松原のげんだぼの森で、草刈り整備全2回に延べ23名が参加しました。補植はしませんでした。鳥のさえずりが、げんだぼの森の中から聞こえてくるようになりました♪

市民林床調査

人工林から照葉樹林の復元に必要な具体的手法を決定していくために、自然林に隣接する人工林、二次林で市民参加の林床調査をおこなっています。本年度は2015年2月に1回しました。これとは別に、大森岳周辺で林床調査をした他、アカガシの生きものウォッチングでは初めてコケにスポットをあてた観察会をおこないました。

照葉樹林トレッキングコース整備

2012年度に案内看板を設置しています。今年度はボランティアの自主的な活動でルートの下草刈り整備等がおこなわれました。また、ガイド依頼を受けて7名を案内しました。

綾の森の沢調査

会員が中心になって調査し論文にまとめ、釜山で開催された学会でポスター発表するなどの研究発表をしています。

施設の運営

てるは森の驛運営(綾の照葉大吊橋 入口)

今年度は施設の再整備等はおこなわず、従来の営業(1F無料休憩所、2F木育ひろば、3F飲食物提供)をおこないました。

2Fでは綾の森に関することを展示できるスペースがありますので、ご希望の方は当会までご連絡ください。

森と人をつなぐ

照葉樹林ガイドボランティア

綾の照葉大吊橋周辺遊歩道2kmで照葉樹林ボランティアガイドが散策の案内をしました。1年間で18回延べ206名が参加しました。最近の傾向は、1~2人の少人数でガイドを希望される方が多いようです。また、ツアーの現地事務局をし、親子43名が来綾しました。

照葉樹林復元ボランティア間伐作業(木こり体験)

第1回目は2014年11月にソーラーボランティア(株)や学生さん34名が参加、第2回目は2015年2月に会員のほか一般参加者23名が参加しました。今年は大学生も多く参加しました。たくさんの学生に綾プロの取り組みを知ってもらい、照葉樹林を体感してもらいたいです。

視察対応の受け入れ

日本全国各地やイランからの視察団が綾町を訪問しました(全5回)。綾の森の案内や当会の綾プロでの役割を説明しました。

ふれあい調査(空道地区と川中の森)

2012年度から空道地区で始めた調査では、何回も地区の方から聞き取りをし、マップを完成させています。その録音記録を書き起こし、聞き書き集として冊子に記録しました。

その他、川中の森周辺での調査も同時に始めた年でした。林業遺産や歴史、文化を見てまわり、資料を集めたり話を聞いたりしました。

国際照葉樹林サミットin屋久島 参加

2014年6月に、第2回 国際照葉樹林サミットin屋久島 が開催されました。2011年に綾で第1回目を開催し、照葉樹林を通じたネットワーク内で持ち回りして数年おきに開催しようと始まって3年後、第2回目が開催されたことを祝福しました。

綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会

2015年2月に、綾町公民館大会内で宮崎森林管理署長が説明しました(参加者約500名)。これまで一部の方しかご紹介できませんでした。多くの町民が集まる行事の中で発表し、より効果があるのではと期待しています。

照葉樹林環境教育講座

貴重な照葉樹林の理解を綾小中学生に深めてもらうために取り組んできたこの事業。2014年度は、ユネスコスクールの取り組み状況を見守るため、実施しませんでした。この結果、2015年度からは、綾町役場ユネスコエコパーク推進室がこの講座に関連した取り組みを引き継ぐことになりました。

地域づくりワーキンググループ運営

綾のまち歩きコースをつくるために、全8回延べ91名の参加で、現地調査や会議を進めた他、愛称を「ひゃらひゃ〜つウォーク」として取り組むことを決めました。また、「てごし」の心で元気にまちづくりに取り組む西米良村を視察しました。

綾町生涯学習講座のお手伝い

綾町民対象「綾の自然と文化を楽しむ」講座(教育委員会主催)が6月から毎月1回開催されました。植物の資料づくりのお手伝いをしました。

広報

表彰

2014年6月30日、「平成26年度 宮崎県地域環境保全功労者等表彰」を当会が受賞しました。

パネル展示やブース出展

綾プロや当会の活動紹介、綾の森の紹介をエコプロダクツ展でおこないました。寄付や会員入会、ガイド依頼などにつながりました。

情報発信

照葉樹林だよりを年に4回発行し、会員へ発送したほか、宮崎市内、綾町内の施設に置きました。2014年度から、表紙写真を公募しています。

ホームページやフェイスブックでも情報発信を続けています。

3回に渡り、講演や事例発表、原稿執筆を事務局員が対応し、普及啓発に努めました。

(事務局 下村ゆかり)

「新緑の綾の森へ行こう！」

事務局 相馬美佐子・下村ゆかり

2015年5月、綾の照葉樹林プロジェクトは発足10周年を迎え、これを記念して5月17日に「新緑の綾の森を歩こう！」の記念事業を開催しました。新緑の照葉樹は、「まさに、萌えている」の表現がぴったり。薄緑、黄緑、深緑、様々な緑のモザイクを重ねて広がっています。この企画に、当会会員を含む一般参加者33名とスタッフを合わせて約60名が参加しました。散策は大森岳林道コースと県有林遊歩道コースの2つに分けられました。

国有林である大森岳林道は、施錠され許可なく入ることができないため、この機会にとコースに設定しました。5月とはいえ雨の多かった今年は、数ヶ所ではけ崩れがあったため前日まで林道の整備をし、当日は工事車両が待機する中でのイベント開催となりました。

どちらのコースも天候に恵まれた日は深山を眺望することができます。大森岳林道コースからは、綾北川の北東に連なる釈迦ヶ岳から掃部岳に連なる山並みを、そして県有林遊歩道コースからは、川中方向に見渡す綾南川沿いの谷間に広がる山並みと、綾町で一番標高の高い大森岳の頂上を見渡せます。

散策前日の午前中は雨。午後から下見に入ったガイドからは、霧が出て何も見えないという話を聞いていたので、曇りの天気予報にドキドキしながら当日を迎えました。ところがなんと、当日は晴天。素晴らしい森の眺めを堪能することができました。

1週間前に下見した際には、県有林遊歩道コース沿いに畳2畳ほどにも広がったギンリョウソウのお花畑がありました。しかし、当日には姿がありませんでした。ギンリョウソウは葉緑素のない種子植物で、短い期間しか姿を現しません。森は刻々と姿を変えていることを実感しました。

散策から戻ると、綾の照葉大吊橋に全員集合。綾の森の猟師さんがつくったシシ汁とおにぎりに舌鼓を打ち、祝典を開催しました。綾町長 前田氏の挨拶や、駆けつけた宮崎県知事 河野氏のお祝いの言葉のあと、綾の語り部のお二人に昔話を披露していただきました。大吊橋の広場に集まった参加者たちは、思いがけない

晴天の中、ふりそそぐ太陽光線に少しばかり体をほてらせながら、耳を傾けていました。

参加者から「会員を続けようか迷っていたけど、今回参加してまた応援しようという気持ちになった」と嬉しい感想をいただきました。2015年度は、10周年を記念して様々な行事を開催します。しばらく当会活動と縁遠くなっていた方、会員にはなつたけれど、どんな活動をしているか知りたいと思う方、ぜひご参加ください。綾でお会いしましょう！

※綾プロ10周年記念行事の詳細は、8頁をご覧ください

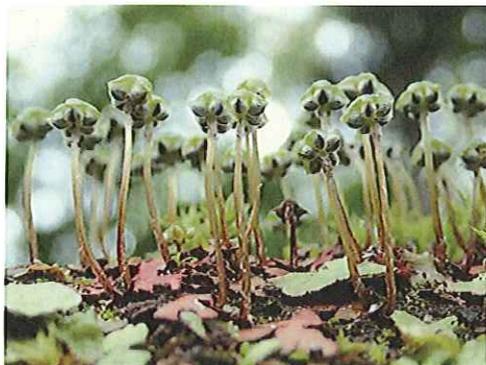


照葉大吊橋前の広場で祝辞を聞く

第2回 わたしの好きな“^{てるは}照葉の森”

入賞作品

春 体にとってもいいで賞(薬膳茶房オーガニックごうだお食事券1人分)
【タイトル：小さな宇宙】 撮影：松本 美津さん



〔選考〕
まるで宇宙の未確認物体が、触覚を上にも横にも伸ばして、必死に情報収集しているよう。ジンガサゴケの胞子がコミカルに動く姿を想像させられました。

夏 大地の恵みを味わいま賞(綾町商工会の商品券1,000円分)
【タイトル：緑霧】 撮影：柵橋 俊之さん



〔選考〕
初夏の若々しい森に霧がかかり幻想的でありながら、太陽の光を受けてみずみずしさを感じる作品です。照葉樹林の持つ光と影を想像させられました。

秋 綾の照葉樹林を知りま賞(照葉樹林ガイドブック)
【タイトル：晩秋】 撮影：坂本 信幸さん



〔選考〕
雨に打たれ、岩から溢れ出る水しぶきに打たれ、しっとりした岩肌。そこにはりつく色とりどりの、大小異なる形をした葉っぱ。常緑の葉っぱといえど、こんなにも私たちの目を楽しませてくれます。

冬 ふっくら美味しい綾で賞(パン工房綾の商品券1,000円分)
【タイトル：静寂】 撮影：鈴木 清次さん



〔選考〕
朝のシンとした静けさの中、川面に浮かぶ霧もや。そこにかかわらずたたく照葉樹を背景に、朝日を受けて赤く光る低木が、1枚の絵のような美しさを感じさせてくれました。

会報誌「照葉樹林だより」の表紙を飾る写真作品を、「第2回 私の好きな“照葉の森”」で公募しました。昨年と同様、「綾および宮崎県内の照葉樹林の自然」をテーマにしたところ、7名の方から29点の応募がありました。応募作品は、春夏秋冬1点ずつの合計4点採用することを基準に選考しました。

応募作品を撮影した日付と撮影対象物から分類したところ、春が8点、夏が6点、秋が12点、冬が3点に分けられました。中でも秋から冬にかけて、紅葉しない、落葉しない照葉樹林をどのように表現されているのかが選考するうえで難しく感じましたが、とても美しい色合いのものが多くありました。今までの表紙に新たな視点をもたらしてくれる作品もあり、選考に悩みました。

その中から最終的に掲載の4点が副賞つきで選ばれました。応募くださったみなさま、ありがとうございました。次年度も、新たな“照葉の森”の視点に魅せられることを楽しみにしています。(事務局 下村 ゆかり)

読者の窓

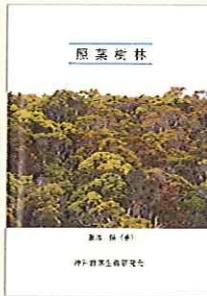
vol. 3



※こんなおもしろいもの見つけたよ! 何でも事務局まで読者の声を聞かせてください!

本の紹介

『照葉樹林』 服部 保 著 神戸群落生態研究会 発行
定価: 2,100円 (税込・送料込)



著者は、「文化」のシンボル、自然保護のシンボルとしてあこがれを抱いた「照葉樹林」の研究を42年間に及び続けてきました。沖縄県から青森県、東南アジアの山岳地帯に及んだ研究対象地域で、多岐に渡る調査をし論文として発表しました。この42年間の論文全体を見直し、まとめ直されたのが本誌。照葉樹林の定義や構成、分布や種の多様性など、照葉樹林を理解する手引書となるでしょう。

ご購入方法

- ①氏名、送付先住所、電話番号、必要冊数、本代と郵送料の合計金額を、下記に申し込む
- ②料金を下記にお振り込みする
- ③お振り込み確認後、本が発送される。

お申し込み・お問い合わせ先

兵庫自然研究会 服部保
〒664-0896 伊丹市船原1-4-5
電話・FAX: 072-784-7530
E-mail: t.hattori810@gmail.com

お振込先

三井住友銀行 フラワータウン出張所
普通預金 口座3195829
ヒョウゴシケンケンキョウカイ

事務局だより



◆てるはの森の会 関連行事

* 終了した行事 *

- 4月 10日(金) 第1回綾133エコパーク地域連携協議会 出席
- 11日(土) 環境NGO・NPOレベルアップ研修(鹿児島)
- 14~16日 環境NGO・NPOレベルアップ研修(熊本)
- 17日(金) 綾プロ10周年記念誌 編集会議
- 20日(月) 第1回 連絡調整会議
- 5月 7日(木) 県有林遊歩道下見(綾プロ10周年行事)
- 11日(月) 県有林遊歩道下見(綾プロ10周年行事)
- 14日(木) 大森岳林道下見(綾プロ10周年行事)
- 16日(土) 第2回 連絡調整会議
綾プロ10周年行事 会場設営
- 17日(日) 綾プロ10周年行事「新緑の綾の森へ行こう!」
- 19日(火) 第1回 げんだぼの森 草刈り作業
- 22日(金) 第2回(一社)てるはの森の会 通常総会
- 28日(木) 宮崎県開発事業特別資金審議会 出席
- 6月 2日(火) 綾トープはっけんじま 草刈り作業
- 3日(水) 宮崎県森林審議会 出席
- 10日(水) 綾プロ10周年記念誌 編集会議
- 17日(水) 会報誌 表紙写真作品募集 選考会
第1回 てるはの森の会 定例会
第1回 地域づくりワーキンググループ

* 今後の予定 * (予告なく変更になる場合があります、ご了承ください。)

- 6月 30日(火) 第2回 連絡調整会議
第22回 綾プロ連携会議
- 7月 9日(木) 川中ふれあい調査
- 15日(水) 第2回 地域づくりワーキンググループ
- 25日(土) 木のおもちやが綾に大集合!(木づかい体験イベント)

年間スケジュール

綾の照葉樹林プロジェクト 10周年記念行事

綾プロ10周年を記念し、2015年度は様々な行事を計画しています。久しぶりに活動に参加して、綾プロの今を、綾町の今を、見に来てください!

1. 新緑の綾の森へ行こう!

日時: 5月17日(日) 場所: 文化ホール集合
綾の森散策を行い、綾町大吊橋広場にてお祝いの言葉をいただき、お茶の会とする。

2. 東京おもちゃ美術館がやってくる!

木のおもちやが綾に大集合! **無料**

日時: 7月25日(土) 場所: 綾町高齢者研修センター
子どもたちを対象に、木のおもちやに触れ、木の良さを感じてもらおう「木づかい体験イベント」に協力する。

3. 10周年 記念フォーラムの開催

日時: 9月第1週目(予定) 場所: 綾町内
記念式典を開催し、今後の将来について考える。

4. 10周年 記念誌の発行

10年の活動をまとめた記念誌を発行する。
9月開催の記念フォーラム参加者に配布予定。



会員募集中!

(一社)てるはの森の会では、綾の照葉樹林プロジェクト(綾プロ)にご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林や綾プロに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。綾プロが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

年会費

個人会員	2,000円
団体会員	5,000円
法人会員	10,000円